

平成19年度中間評価結果（平成19年12月）

〔研究開発課題名〕 超高速光マルチメディア配信システムの研究開発

〔委託機関名〕 沖電気工業株式会社

項目	評価 ランク	所 見	再評価 ランク	再 所 見
総合 所見	A	<p>（技術） 中間評価のデモンストレーションを見ることができ、各技術目標に対する検討状況の進捗を確認できたことは良い事であったと考える。 H18の中間評価では全体の進め方に関し、「システム化に向けた検討を踏まえた個別技術の検討が必要」とのことであったが、今回の報告により概ねクリアしたと考える。 しかしながら、実用化を念頭においた今後の検討には、まだ多くの課題が潜在していると考えられる。H19後半、H20の検討を確実に進捗させると同時に、実用化を目指した検討に着手すべきと考える。</p>	-	（技術）
		<p>（事業化） リアルタイム高精細映像配信サービス、大容量ファイル転送サービス、遠隔医療サービス、並列計算機処理サービスなどを実現可能とする「超高速PONシステム」の販売についての事業化計画である。大容量光アクセス市場は成長性の点で非常に有望であり、本事業化計画が魅力的であることは疑いない。また、伝送速度160Gbpsを実現する超高速PONの研究においては受託者が先行開発している状態であり、早期市場投入により一定の市場シェアを獲得する可能性が高く、委託費程度の売上納付は期待できる。</p>		（事業化）

（注）総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。